

★★平成十九年『路』年間賞★★

〈選考委員〉伊藤我流・岩淵黙人・内平登代子・江澤多香子  
加藤佳子・金子美知子・小泉正巳・佐々木彩乃・佐藤頼昭  
高橋里江子・瀧 正治・中野沙千古・藤原和美・堀井 勉  
(五十音順・敬称略)

最高賞(賞状・入賞句彫刻楯)

まだ何か降ってる傘はたためない

小泉 正巳

◎登代子、◎沙千古、△我流、△黙人、△彩乃

優秀賞(賞状・入賞句彫刻楯)

人生訓もう屑籠は満杯だ

小泉 正巳

◎佳子、○里江子、○和美、○正治、△登代子

受賞の言葉

小泉 正巳



特に格調もなく詩的でもない私の句が、しかも二句が高い評価を受け、何かの間違いではないかと驚きました。どちらか一句だけでも過分な光栄ですが、選考のルール上とのことで、あ

つかましくもダブル受賞をさせていただきました。

「まだ何か」の句は、待てど暮らせど悠々自適が来ないシルバー世代の心境を、「人生訓」では、人間に過剰なプレッシャーをかける情報化社会を表現したつもりです。勝手な思い上がりになりますが、選考でこの評価戴いた点は、多分社会的な切り口ではないかと思っております。

私は宴会係と言われるほどお付き合いをする反面、何日一人で過ごしても苦にならない性格で、この場合ぶつぶつと独り言を繰り返して時間をつぶします。つぶやきはメモに残しても五七五ではなく、殆ど役に立ちませんが、たまには句になりそうなこともあり、慌てて言葉探しをしたりメモを逆さに読んでみしてみます。

こんな調子でこの十年不器用にやってきました。せめて故水華先生の足許を覗くまで続けば上出来だと思っております。今回受賞した句がその過程に値するものかどうか判りませんが、賞は今後の私への「温かい鞭」だと思いい込むことになりました。美知子主宰、選考関係者、推薦者の皆様に心からお礼申し上げます。



次点(高点順)

- 人間の音を探している水辺  
◎我流、◎和美、◎彩乃  
岩淵 黙人
- 寛大になれと言ってる秋の天  
◎我流、◎佳子、◎頼昭  
後藤 洋子
- 相槌の一つは冬の色だった  
◎彩乃、◎正巳、△美知子、△多香子  
荻原 鹿声
- またひとり もうでてこないかくれんぼ  
◎黙人、◎彩乃、◎佳子  
金澤 紀六
- 空一枚半分ほどは泣きじゃくり  
◎和美、◎彩乃  
伊藤 我流
- 成仏をまだできないでいる昭和  
◎美知子、◎登代子、△和美、△正治  
金澤 昭
- 敬語からバラバラ落ちる石つぶて  
◎美知子、△勉、△里江子、△正巳、△彩乃  
渡辺 貞勇
- やわらかい言葉を探す朝の皿  
◎正巳、◎沙千古、△黙人  
佐々木彩乃
- 説を曲げ風船の気を抜いてみる  
◎頼昭、△登代子、△多香子  
佐々木彩乃
- 勝ち組も負け組もない花筵  
◎頼昭、△登代子、△里江子  
谷田部富義
- 野の花も名花も同じ空の下  
◎美知子  
高橋里江子
- 少年のしつ尾をつけたまま老いる  
◎我流、◎里江子、△登代子  
吉澤 和子
- 天を見る地を見る水仙の視界  
◎正巳、△沙千古  
江澤多香子
- やせ犬が差し出した掌を嗅ぎ分ける  
◎美知子  
内平登代子
- 菜箸の先から伸びていく迷路  
◎黙人、◎沙千古  
渡辺 貞勇
- 大声で海と喧嘩をしてみたい  
◎黙人  
大橋 政良
- 赤ちゃんの独演会に家族の輪  
◎勉  
西澤八寿王
- 持ち駒の中に金魚も象もいる  
◎正治  
岡田 話史
- 未来図はモザイク掛けたままがいい  
◎多香子、△美知子  
中野沙千古
- 鈍感とフアジーが舟を漕いでいる  
◎里江子  
望月 弘
- 骨のない人だけ入る核の傘  
◎勉  
原 新平
- 振り向けば夢の欠片か遠花火  
◎正治  
木村 紀夫
- かさかさの街にもあった花言葉  
◎多香子  
荻原 鹿声
- 給食の皿に転がす基本法  
◎里江子  
岡田 話史

シャボン玉割れて大人になるんだよ	伊藤 我流
◎登代子	
冬眠を知らないヒトが核を抱く	高橋里江子
◎沙千古	
子育てにマニユアルばかり求められ	堀井 克子
◎多香子	
だんだんと義母が素直になる不安	妹尾 安子
○頼昭、△我流、△佳子	
嫌われる理由が分からない毛虫	二宮 茂男
○沙千古、△我流	
一面も二面も神の霞む記事	堀井 克子
○里江子、△正巳	
雑巾を絞るとどつと出る不満	佐藤 頼昭
○登代子、△正治	
負けて来たその日を秘密基地にする	瀧 正治
○登代子、△和美	
人情を沸かし続けていた土瓶	松方 尚義
○和美、△彩乃	
淋しさは真っ赤な風呂敷につつま	和泉あかり
○佳子、△黙人	
繕って晒して明日の画布にする	内平登代子
○正治、△多香子	
折れそうな背中に父の遠太鼓	渡部トミ子
○美知子	
多数決、真の気骨を積み残す	内平登代子
△正治、△沙千古	
骨になる時を少うし考える	荻原 鹿声
○黙人	
胡桃二個老いて励まし合っている	瀧 正治
△頼昭、△彩乃	
おみくじは大吉と出てそれっきり	大橋 政良
○多香子	
シンプルな暮らしから出る粗大ゴミ	二宮 茂男
○正巳	
海へ出る嬉しい日より淋しい日	後藤 洋子
○佳子	
丸ばつを拾い集めて忙しい	藤原 和美
△彩乃、△沙千古	
輪の中でカメにはカメの呼吸法	吉澤 和子
○正治	
満腹の心をつつく爪楊枝	藤原 和美
○正巳	
告白のチャンス最寄りの駅で待ち	阿部闕句郎
○我流	
温泉につかると猿とおなじ貌	金澤 紀六
○勉	
生きている限り終わらぬ後始末	岩渕 不弁
○勉	
苗床を出てから太くなる根っこ	野村 春香
△美知子	

ハンドルを握ると人が邪魔になり	加藤 佳子
○頼昭	
瀬戸際に立つと尻尾を振る鬼で	田中寿々夢
○彩乃	
休肝日サササと終わる夜の膳	佐藤 頼昭
○勉	
カミソリで薄くはがしているむかし	角田 誠
○黙人	
譲れない一線がある喉仏	日野 輝紀
△美知子	
誰かとの約束 冬のバラ一つ	吉澤 和子
○和美	
酸化した夫婦が捜す同じ夢	芹沢美知子
○多香子	
ストレスが溜まると覗く万華鏡	堀井 勉
○我流	
前向きに生きればときに恥もかく	佐藤 頼昭
△美知子	
進化論 三度が三度にぎり飯	神谷三八朗
△正巳	
身の丈へお椀の舟が丁度いい	伊藤 我流
△正治	
なぞなぞの答えの先にいた家族	後藤 洋子
△黙人	
しがらみの眉間を抜ける青い風	佐々木彩乃
△我流	
ITに馴染めず部下の草履取り	伊藤 英龍
△里江子	
手鏡が正直すぎて深呼吸	木村 道子
△勉	
投げやりな言葉の裏があたたかい	佐々木彩乃
△和美	
けつきよくは許して鍋を磨いてる	横田 藍
△佳子	
しなやかにあなたのために間引かれる	岩淵 黙人
△我流	
行列を離れて光り出す鞆	荻原 鹿声
△和美	
何の彼の時代なんだよ非常識	滝口 宗忠
△里江子	
茶柱の斜めを好きにならなくちゃ	和泉あかり
△勉	
銃口の先に無口な射程距離	高橋里江子
△和美	
蒼天の四隅しっかり止めておく	伊藤 我流
△沙千古	
自己主張私ひとりのルビを振る	保田 二郎
△佳子	
薄型のテレビひらひら舞う笑い	小泉 正巳
△頼昭	

風向きに揺れて養虫生き上手	矢田たつ子
△頼昭	
山頭火減ったよ君の青い山	緒方 一雄
△正巳	
私の似顔絵描けば雨になる	大黒谷サチエ
△正巳	
あとがきは妻の背中に貼ってある	望月 弘
△黙人	
定年後自由がだんだん怖くなる	斎藤 孝
△多香子	
気のおけぬ酒で尻尾を遊ばせる	砂糖 頼昭
△勉	
神仏が見えればボクが消える番	岩渕 不弁
△登代子	
自画像の額を変えても僕はボク	瀧 正治
△沙千古	
真実はびつくり箱の中らしい	木村 紀夫
△里江子	
介護車が目立つかつてのニュータウン	荻原 鹿声
△頼昭	
禁煙を果たし青空深く吸う	金澤 昭
△多香子	
嫁姑アメが行ったり来たりする	和泉あかり
△勉	
心音が一系列になる朝の駅	中野沙千古
△佳子	
踏まれゝば尚更燃える草の意地	矢田たつ子
△正治	
木枯らしの中で芽吹いた土性骨	木村 紀夫
△頼昭	
父の壁外すと居間に通る風	瀧 正治
△佳子	

選考の経緯方法は、次の通りです。

一、選考対象句は、「路」誌「516号（平成十九年二月号）～527号（平成二十年一月号）」の推薦句。

二、選考委員は、十句（特薦二句 各四点、秀逸三句 各二点、佳作五句 各一点、但し、主宰はそれぞれに一点を加算する。）を推薦する。

合計点の高い順に、最高賞、優秀賞各一句を主宰が決める。上位が同点の場合は、主宰が一句に決定する。

前記の資料を「編集幹事会議」へ提出して確認を得た。

（整理 二宮 茂男）